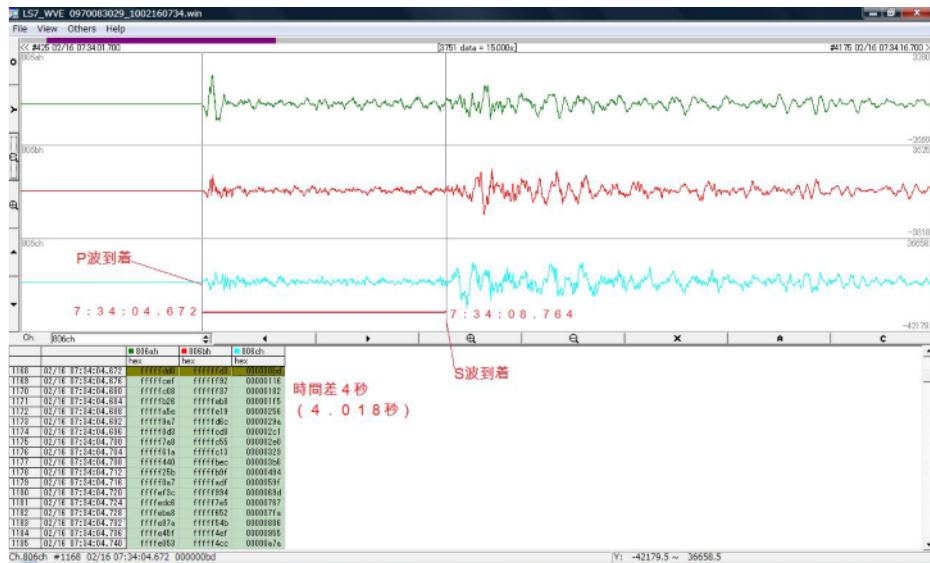


## 教科書で勉強するだけのP波・S波も

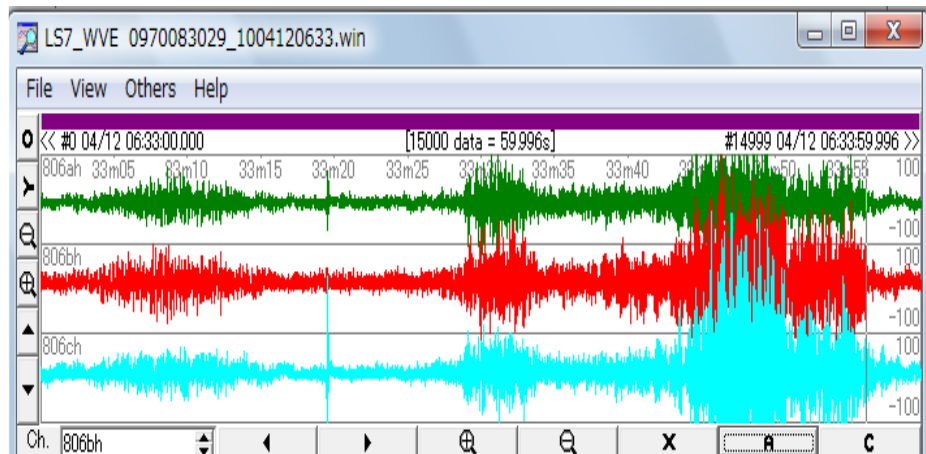


## 下山小とJR山陰本線



資料提供: JR西日本

## 通過する特急列車を地震計でとらえよう



## まとめ:学習プログラムのねらい

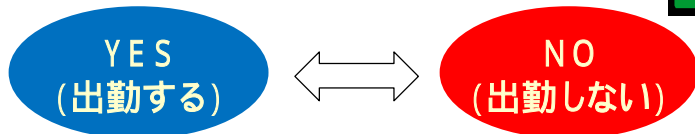
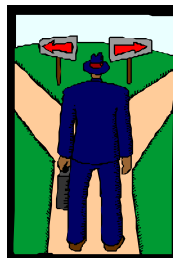
- ◎ 「本物」に参加
  - > 地震研究の最先端に子どもたちが自身が参加
  - > 子どもたちも「全員センサー」の一人
  - > 「防災って、みんなでするもの、みんなで発信するもの」
  - > 「子どもなんだから、この程度で…」はよくない
- ◎ 「理科離れ / 科学嫌い」対策
  - > 防災や災害への興味・関心と「科学するおもしろさ」
  - > 実は、隕石落下まで…
  - > 将来はちょっとした「実験」も!
- ◎ 継続性:
  - > 子どもたちが自身が、地震計の設置、保守・点検、データ収集を長期間担当
  - > さらに下級生にバトンタッチ
  - > 1回限りのイベント防災教育はよくない
- ◎ 地域や身のまわりへの関心
  - > 列車の震動、道路工事、先生方のクルマ、体育や音楽の授業など…



# 防災ゲーム 「クロスロード」

## 「クロスロード」サンプル(神戸編1015改変)

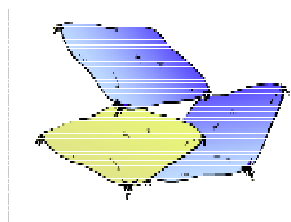
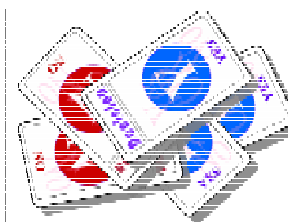
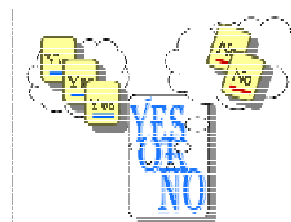
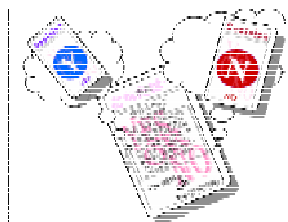
- あなたは...自治体職員...です。
- 未明の大地震で、自宅は半壊状態。幸い怪我はなかったが、家族の一人が骨折したようで痛がっている。電車も止まって、出勤には歩いて2、3時間が見込まれる。出勤する？



## クロスロードの基本ルール

1 YesかNoか - どうしよう...?

2 決断してY/Nカードを裏向けで



3 オープン...!

4 多数派 = 青座布団 (1人意見 = 金座布団)

【神戸市地域防災計画では】

- ・ 防災指令の種類、発令基準等(地震対策編応急対応計画 1 - 4 職員配備計画より)

種類	発令基準	配備すべき職員	活動内容
防災指令第3号	本市域内に震度5以上の地震が発生したとき、(以下略)	全職員	予想される災害に対処するための準備措置又は発生した災害に対する応急処置

- ・ 動員の原則(地震対策編応急対応計画 1 - 5 職員動員計画より)

本市に所属する全ての職員は、勤務時間外においても、震度階級 5 以上(本市内に設置されている震度計が一つでも震度 5 弱以上を記録した場合)の地震が発生したとき(中略)、全市防災指令第 3 号が発令されたものとして、防災指令の伝達を待つことなく、自らや家族等の安全を確保した後、直ちにあらかじめ指定された場所へ出勤しなければならない。(後略)

【資料より】

1月17日の職員の出務状況(「神戸復興誌」28頁)

	出務職員数	計画数	出務率
市長部局(区、行政委員会を除く)	約 3,100 人	8,850 人	35%
区(福祉事務所を含む)	約 900 人	3,818 人	24%
消防	約 1,300 人	1,372 人	95%
水道	約 700 人	1,006 人	70%
交通	約 850 人	2,249 人	38%
教育	約 500 人	541 人	92%
合計	約 7,350 人	17,836 人	41%

注 1 : 出務できなかった理由は、震災による交通遮断や職員自身の被災等。

注 2 : 局・部長は 17 日午後 6 時現在全員執務。

・ 被災した職員は全職員の 41.9%にのぼった。(「神戸復興誌」28頁)

「クロスロード」がつけられた経緯

- 阪神・淡路大震災のときの「実話」がもともとなった教材
- 文科省のプロジェクト(大大特)、登録商標(2004-83439)
- 「こちらを立てれば、あちらが立たず」の意志決定 - 予め決まった正解(マニュアル)に従うのではなく、「その時その場でみなで正解を作った」(名言...)
- 「被災直後に実感するであろうさまざまな価値観と多様な選択肢を、生活者自身が事前に比較し意思決定できる状況を社会的に確保しておくべき」(嘉田知事の言葉)



「クロスロード(CROSSROAD)」:  
重大な分かれ道、人生の岐路  
人と人が出会う場所、活動場所

「クロスロード」の実施風景



国内外で、すでに30000部近く頒布

世界でクロスロード  
インドネシア、スリランカ、英国...フィリピン、中国、台湾、米国、イタリア、オーストラリア、バングラディッシュなどなど

